

【教育遭難対策】(担当理事：尾手利雪)

第10回遭難防止・安全教育担当者会議が6月20日(日)9:30~12:00、大宮の高鼻コミュニテイセンタ - で13団体24名の参加者で行われました。

議題1. ヒヤリハット(5月連休中での出来事)-----徳重博文(県連救助隊長)「熊谷トレッキング同人」より1)北アルプス・白馬での山スキ -、2)八甲田山での山スキ -、3)火打山・焼山での山スキ -、3件の報告を当該団体の南雲氏から報告を受けました。

議題2. トムラウシの報告文(登山時報5月号より)-----徳重博文(県連救助隊長)登山時報の5月号の「トムラウシ遭難事故を考える」シンポジウムから意見を交換した。

その中で1)「三郷山の会」の浦川氏よりトムラウシ遭難事故の1週間後に同じル - トを同会が登山していたので、コ - スの日程、 装備、 食料について、その報告があった。

2)ツアー - 登山について登山時報の記事にも載っているがアルパインツアー - サ - ビス(株)代表取締役の黒川恵氏が日本旅行業協会の「ツアー - 登山運行ガイドライン」を守れば、自己を防げる。重要な点は「疲労困憊の参加者を漫然と歩行させないことだ」と言っ

ている。尚、(社)日本旅行業協会「ツアー - 登山運行ガイドライン」(13 ページ) コース

難易度(コ - スグレ - ド)及び引率者比率(ガイドレシオ)(1ページ)はインターネットで検索すれば内容がわかります。

議題3. 遭難の原因は次回に継続。

議題4. 山行計画書について----矢崎辰雄(副理事長)

各会より持ち寄ってもらって参加者にコピ - を配布した。

提出参加団体は11団体、その中で各会からの意見をもとに討議した。パソコンでブルダウンにて簡単に書ける、ル - ト図を掲載できる、装備表は別にある等様々であるが各

会はこれらを参考に又、登攀主体、ハイキング主体の会は山行計画書の中身も当然違っ

てくると思います。

山行計画書が山行届にならないようにしてもらいたいものです。(記 尾手)